

名画で鍛える診療のエッセンス

科目責任者 森 永 康 平

学年・学期 1 学年・2 学期

I. 前 文

※2025年度の授業シラバスです。

※連携する宇都宮美術館・栃木県立美術館の都合により、授業内容（順番）・担当（補助）教官等が変更・追加等になる可能性があります。

※ 年3回通年での開講ですが連続した講座ではなく、2回以上履修することは出来ません。1年間で受講できるのは一回のみとなります。

概説

医師が診療を行っていくにあたって、目の前にある対象（患者自身、画像検査結果）を観察し、また対話することで情報を収集することは、診療の土台となる重要な行程です。また集めた情報を頭の中で整理、思考し、問題解決のための仮説を立てたり、専門家にコンサルトする場合は言語的な能力や対話を用いたコミュニケーション力というものが不可欠です。一方でそれらを学校の授業で学ぶ機会というものは限られてきました。

当講座では表現するために先人たちが試行錯誤してきた結晶である芸術作品もふんだんに題材に用います。作品を前に対話しながら言語技術、相手の思いやりと深い理解を根幹としたコミュニケーション力を楽しく、段階的に身に付けていきましょう。

II. 担当教員

森 永 康 平

III. 一般学習目標

将来の診療や多職種とのコミュニケーションで必要となる論理的・批判的思考や言語技術を学び身につけ、複雑な答えのない問題に立ち向かい決断を下していくのに必要な感性や美意識を自分で磨いてくための方法を探っていきます。

IV. 学修の到達目標

- 1 私達の周囲にあふれる曖昧な情報に敏感に察知できるようになる
- 2 相手の特性に合わせて言葉を選び、自分が納得できるような質問を組み立て実施できるようになる。
- 3 物語がどのような構造をなしているかを学び、既存の物語を要約することが出来る。
- 4 対話型鑑賞を通じ、同一の鑑賞物であっても様々な視点があるのを知り、その理解の上でコミュニケーションを再構築していくことが出来る。
- 5 ネガティブケイバビリティの概念を学び、複雑で答えの無い問題に取り組む姿勢のヒントを得る。

V. 授業計画及び方法 *（ ）内はアクティブラーニングの番号と種類

（1：反転授業の要素を含む授業（知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。）

2：ディスカッション、ディベート 3：グループワーク 4：実習、フィールドワーク 5：プレゼンテーション

6：その他）

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブラーニング
1	7	9	水	5	ガイダンス・オリエンテーション	森 永 康 平	1, 2, 3

回数	月	日	曜日	時限	講義テーマ	担当者	アクティブ ラーニング
2	7	16	水	5	言語力：曖昧な情報の察知	森 永 康 平	2, 3
3	8	20	水	5	言語力：伝える技術	森 永 康 平	2, 3
4		27	水	5	言語力：物語の構造	森 永 康 平	2, 3
5	9	3	水	5	仮説思考	森 永 康 平	2, 3
6		10	水	5	もののあはれ,ネガティブ・ケイバビリティ	森 永 康 平	2, 3
7		24	水	5	仮説思考・まとめ	森 永 康 平	2, 3

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

下記の評価点の合計で総合評価する。

- 1 (40%) テューターによる評価（発表の内容＜積極性）
- 2 (50%) レポート
- 3 (10%) 出席状況

VII. 教科書・参考書・AV資料

アートの視点がこれからの医学教育を変える？ 対話型鑑賞で鍛える「みる」力

https://www.igaku-shoin.co.jp/paper/archive/y2020/PA03379_01

興味があれば下記の書籍やリンク先は非常に読みやすくおすすめです。

- ・対話型ファシリテーションの手ほどき ムック - 2015 中田豊一（著）
- ・ロジックだけでは思いは伝わらない!「共感」で人を動かす話し方（菅原 美千子 2009）
- ・大学生・社会人のための言語技術トレーニング（三森ゆりか 大修館書店 2013）
- ・医学界新聞 第3050号 2013年11月4日および12月2日の記事：

“国際基準”の医師に必要な言語技術を・医学教育に求められる「言葉の教育」

https://www.igaku-shoin.co.jp/paperDetail.do?id=PA03050_02

- ・HELLO, DESIGN 日本人とデザイン（石川 俊祐・NewsPicks Book）
- ・ネガティブケイバビリティ（帯木蓬生 朝日選書 2017）
- ・アート鑑賞，超入門！7つの視点（藤田 令伊 集英社新書 2015）
- ・観察力を磨く 名画読解（エイミー・E・ハーマン 岡本 由香子 早川書房 2016）
（原作者による動画：https://www.youtube.com/watch?v=ubEadhXWwV4&feature=emb_logo）

VIII. 質問への対応方法

随時受け付ける。Email：kmorinag@dokkyomed.ac.jp

もしくは講義Moodleのチャットを利用する。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	○
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	○
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	○
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	◎
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料、情報通信技術〈ICT〉などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

Moodle等で適宜連絡、フィードバックを行う予定

XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

各授業で適宜指示を出す予定

XII. コアカリ記号・番号

シラバス別冊に記載。